



2013年度 第1四半期 決算・ビジネスハイライト

株式会社新生銀行
2013年7月30日

目次

■ 2013年度 第1四半期決算のポイント	P3
■ 2013年度 第1四半期決算概要	P4
■ 業績の状況	P5
■ バランスシートの概況	P7
■ 純資金利鞘	P8
■ ビジネスの概況	P9
■ 資産の質	P14
■ 資本	P15
■ 別添	P16

2013年度 第1四半期決算のポイント

2013年度連結当期純利益目標(480億円)達成に向け順調な立ち上がり

- 1
- 連結四半期純利益: 127億円 (1株当たり四半期純利益:4.81円)
 - 同キャッシュベース純利益: 150億円 (同キャッシュベース:5.66円)
 - 一株あたりの純資産: 236.25円
 - 自己資本比率は、引き続き第二次中期経営計画の目標水準以上を確保

業務粗利益は2四半期連続で増加、収益力の安定化が進捗

- 2
- 資金利益は減少したものの、純資金利鞘は前第4四半期の1.95%から1.98%に改善
 - 法人向け業務では不動産ファイナンスや国内クレジットトレーディングからの収益が堅調に推移し、個人向け業務では投資商品販売が好調であった結果、非資金利益は前第4四半期比増加

不良債権処理が進捗し、資産の質の改善も与信関連費用の減少に貢献

- 3
- 不良債権残高を2013年3月末比で262億円削減し、不良債権比率は4.80%に低下
 - 与信関連費用は、資産の質の良化により各ビジネスにおいて大幅に低下

2013年度 第1四半期決算概要

(単位:10億円)

- 第1四半期の連結純利益は127億円と通期業績予想の26%の進捗となり、順調な立ち上がり
- 単体の四半期純利益も84億円となり、通期業績予想の32%の進捗

【連結】	2012年度 第1四半期	2012年度 第4四半期	2013年度 第1四半期	2013年度 通期計画	進捗率
業務粗利益	52.0	48.6	50.5	215.0	23%
資金利益	28.2	27.4	26.9	115.0	23%
非資金利益	23.8	21.2	23.5	100.0	24%
経費	31.7	32.9	32.6	135.0	24%
実質業務純益	20.2	15.7	17.8	80.0	22%
与信関連費用	-0.6	0.6	-0.0	20.0	-
四半期(当期)純利益	16.4	13.2	12.7	48.0	26%
同キャッシュベース ¹ 純利益	18.8	15.4	15.0	56.0	27%
【単体】					
実質業務純益	8.1	4.9	10.1	36.2	28%
四半期(当期)純利益	7.4	6.7	8.4	26.0	32%

2013年度第1四半期決算概要

- **資金利益**: 前第4四半期比で減少したものの、純資金利鞘は前第4四半期の1.95%から1.98%に改善
- **非資金利益**: 法人向け業務では不動産ファイナンスや国内クレジットトレーディングからの収益が堅調に推移し、個人向け業務では投資商品販売が好調であった結果、非資金利益は前第4四半期比増加
- **与信関連費用**: 資産の質の良化により各ビジネスにおいても与信関連費用が大幅に低下

2013年度通期計画達成に向けた展望

- 顧客基盤の拡充の取り組みを強化し、良質な資産を積み増すとともに、お客さまとの取引の一層の推進を目指す

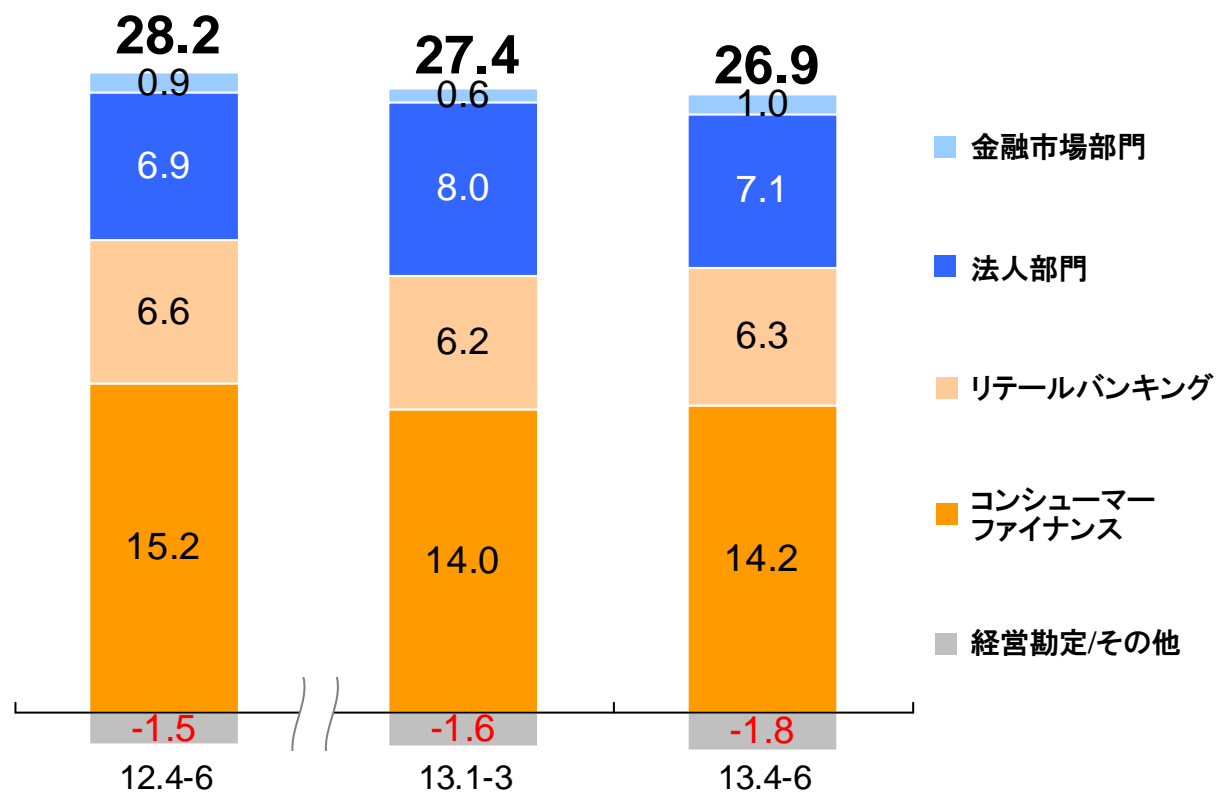
¹ 純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

業績の状況：業務粗利益

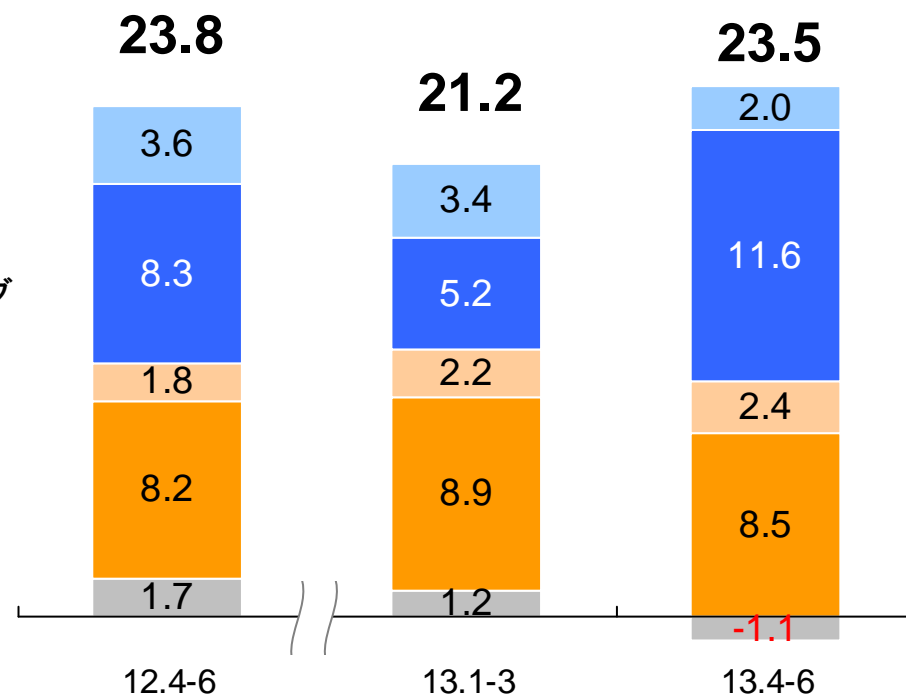
(連結、単位：10億円)

- 全体の資金利益は減少したものの、消費者金融ファイナンスの資金利益は前第4四半期比増加
- 法人向け業務では不動産ファイナンスや国内クレジットトレーディングからの収益が堅調に推移し、個人向け業務では投資商品販売が好調であった結果、非資金利益は前第4四半期比増加

資金利益



非資金利益

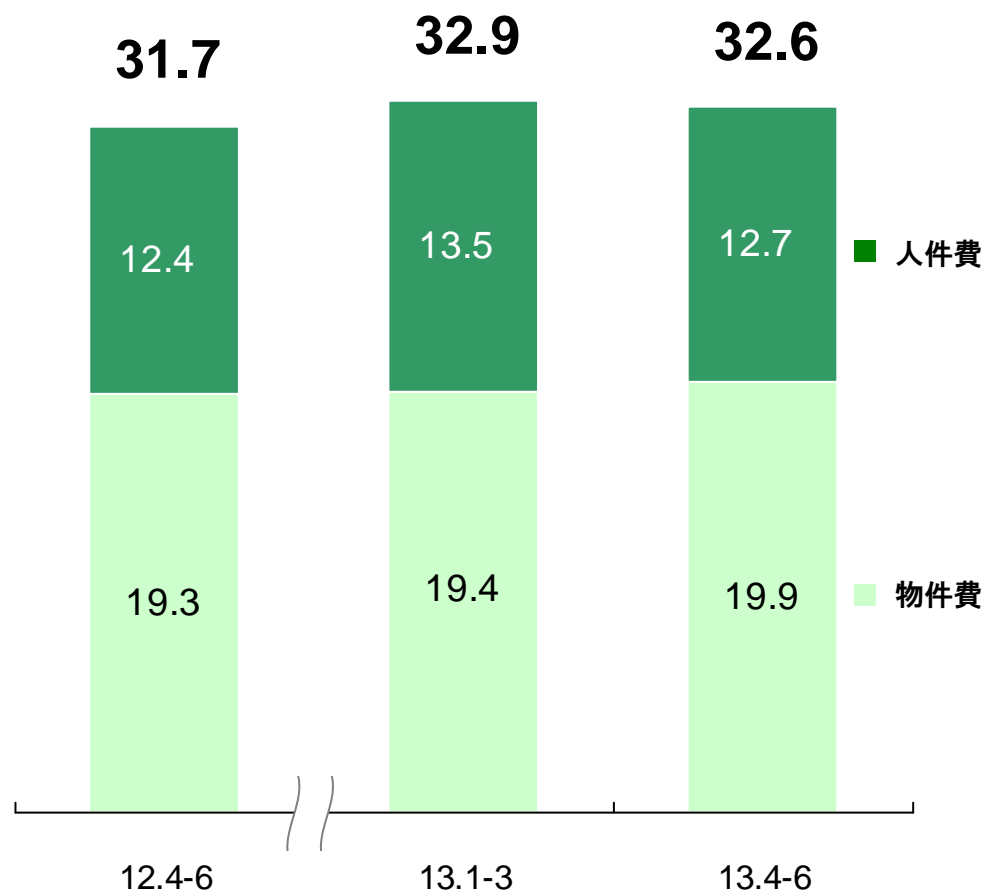


業績の状況：経費・与信関連費用

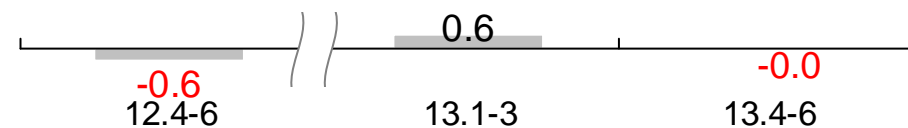
(連結、単位：10億円)

- 経費は、注力分野に経営資源の投入を図りつつも、前第4四半期比ほぼ横ばいで推移
- 与信関連費用は、資産の質の良化により各ビジネスにおいて大幅に低下

経費



与信関連費用



■ 与信関連費用

バランスシートの概況：貸出金、預金(リテール預金・法人預金)

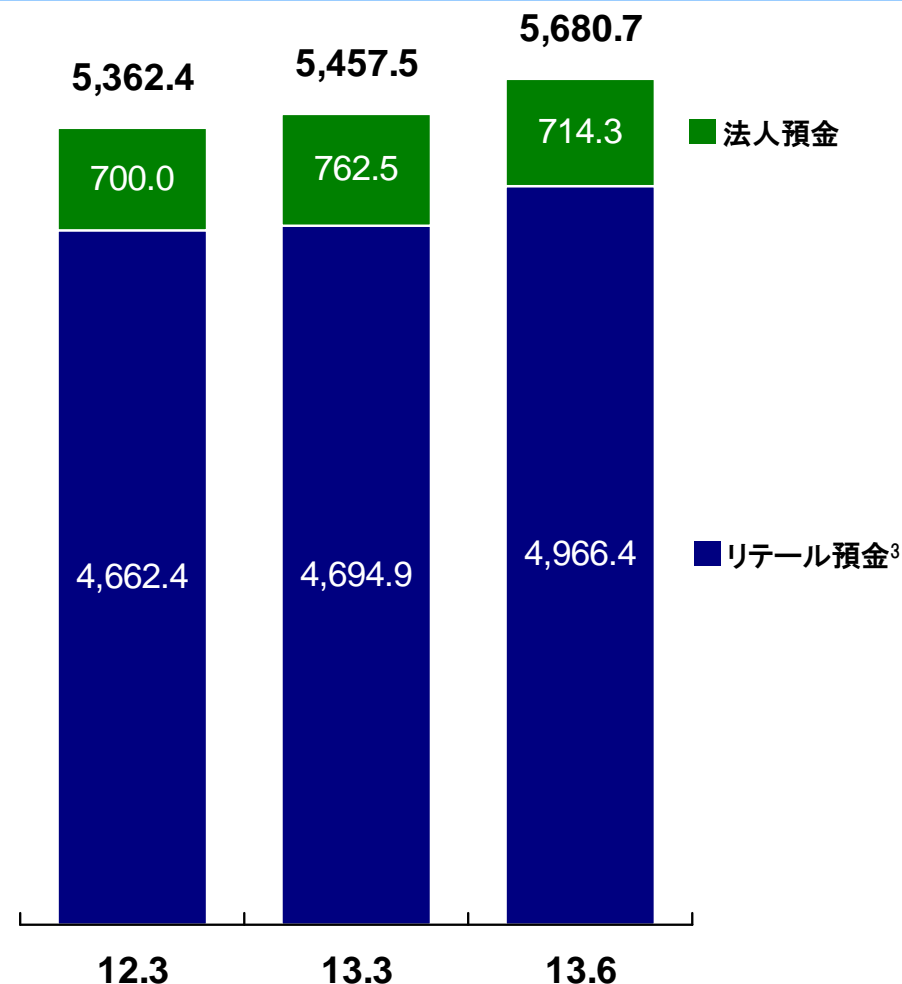
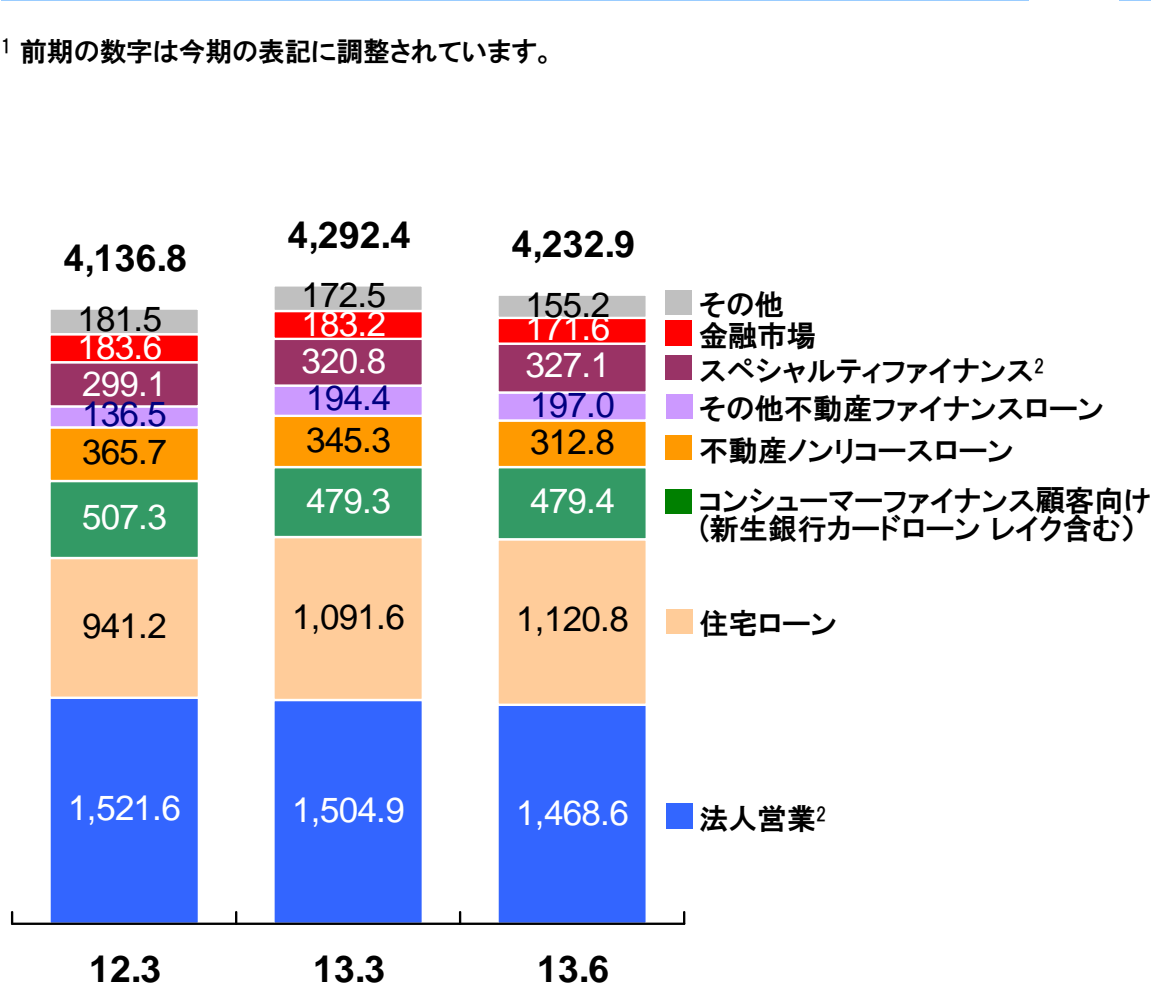
(連結、単位：10億円)

- 貸出残高は減少するも、消費者金融ファイナンスの貸出残高は2013年3月末比増加
- 財形金融債から財形定期預金への移行の影響もあり、リテール預金が引き続き増加

貸出金¹

リテール預金³・法人預金

¹ 前期の数字は今期の表記に調整されています。



² 2013年4月1日付の組織改正に伴い、 SHIPPINGファイナンスに係る残高(2013年6月末1,032億円)を法人営業からスペシャルティファイナンスへ組み替えています。

³ 2013年4月に、2,028億円の財形金融債が財形定期預金に振り替わっております。

純資金利鞘

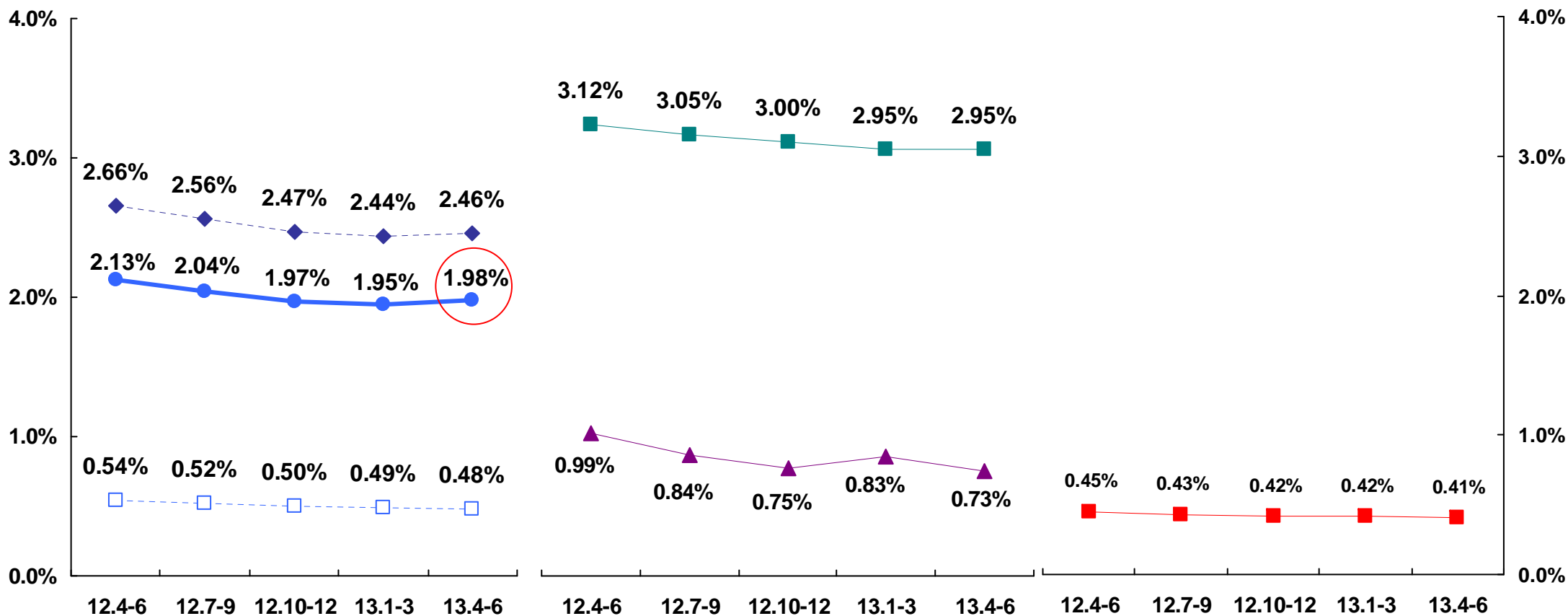
(連結、単位:10億円)

- 純資金利鞘(ネットインタレストマージン)は前第4四半期の1.95%から1.98%に改善
- 貸出金の運用利回りの低下傾向に歯止めがかかり、前第4四半期比横ばいの2.95%

純資金利鞘(ネットインタレストマージン)¹

貸出金、有価証券の運用利回り

預金・譲渡性預金調達利回り



◆ 資金運用利回り¹ □ 資金調達利回り
 ● 純資金利鞘(ネットインタレストマージン)¹
¹ リース・割賦売掛金を含む

■ 貸出金利回り
 ▲ 有価証券利回り

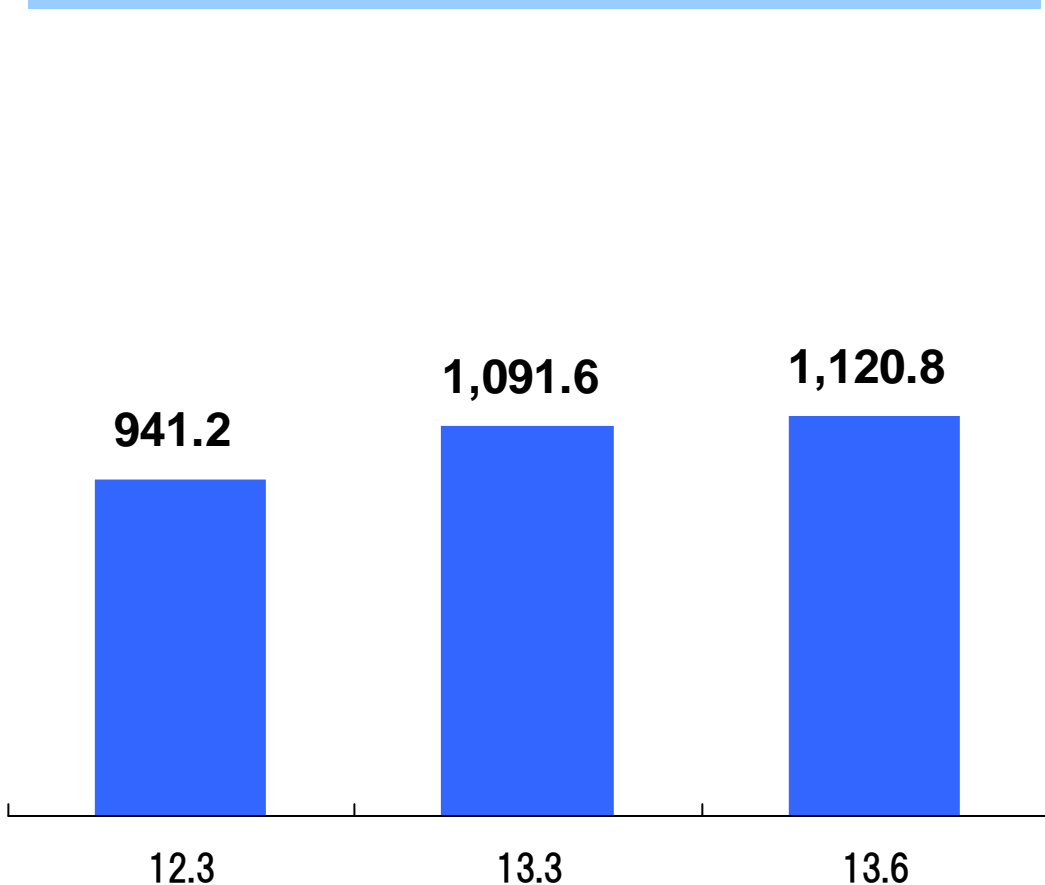
■ 預金・譲渡性預金利回り

ビジネスの概況：住宅ローン

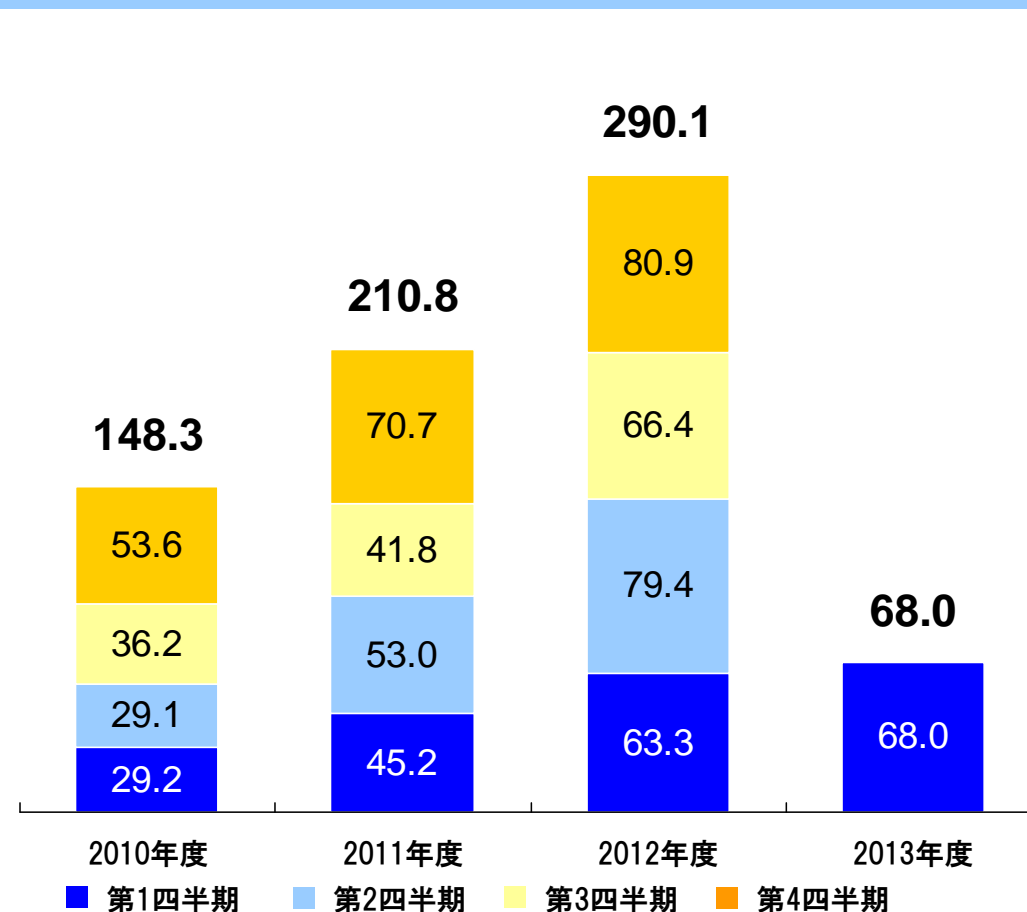
(連結、単位：10億円)

- 住宅ローンは堅調に推移し、残高を積み増すとともに収益にもプラスに貢献
- 第1四半期の新規実行額は680億円となり、3期連続で前年同期の実績を上回る

住宅ローン残高



新規実行額の推移

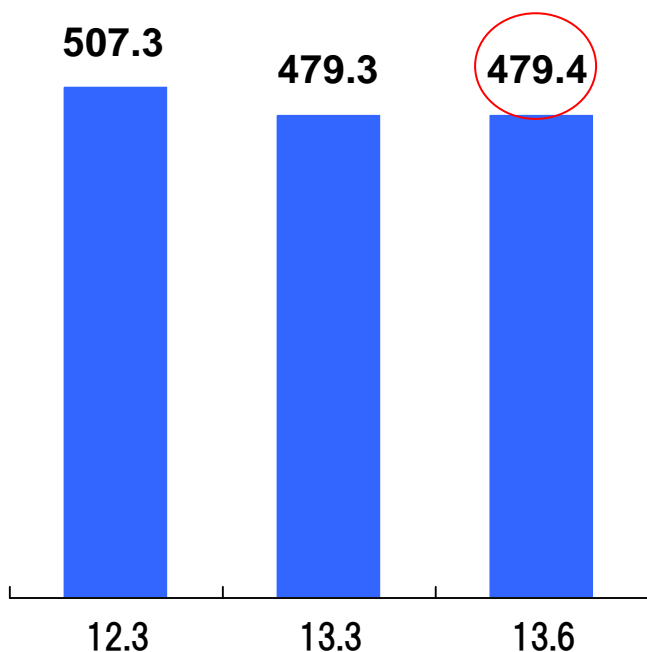


ビジネスの概況: コンシューマーファイナンス

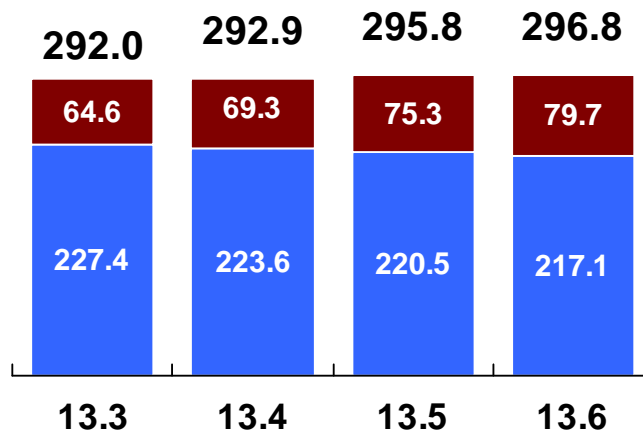
(単位:10億円)

- 新生銀行カードローン レイクと新生フィナンシャルの合算ベースの貸出残高は、2013年1月以降6ヶ月連続で前月比増加し、回復トレンドが続く
- コンシューマーファイナンス顧客向けの貸出残高も2012年12月末を底に2四半期連続増加

コンシューマーファイナンス顧客向けの貸出残高¹

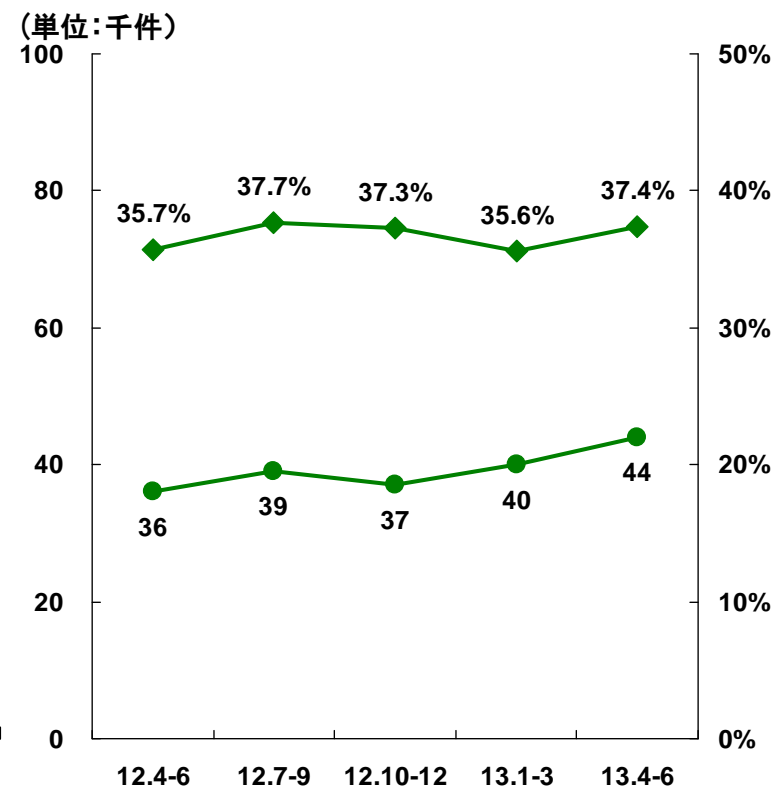


新生フィナンシャルおよび新生銀行カードローン レイク個人向け無担保ローン残高



■ 新生銀行カードローン レイク
■ 新生フィナンシャル

新規獲得顧客数と成約率の四半期推移



● 新規顧客獲得数(左軸) ◆ 成約率(右軸)

¹ コンシューマーファイナンス顧客向けの貸出残高には新生銀行カードローン レイク、新生フィナンシャル、シンキ、アプラスフィナンシャル、その他の顧客向け貸出を含んでおります。

ビジネスの概況：過払利息返還

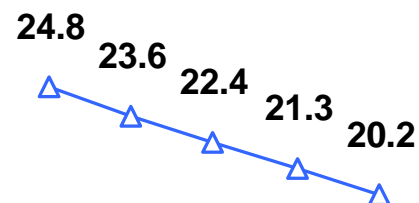
(単位:10億円)

■ 開示請求件数、利息返還額ともに、3社全てで前年同期比減少

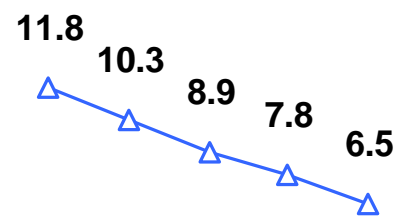
(単位:千件)

開示請求件数	12.4-6	12.7-9	12.10-12	13.1-3	13.4-6	13.7-9	13.10-12	14.1-3
新生フィナンシャル	16.6	14.4	14.0	14.2	14.1			
シンキ	2.8	2.5	2.5	2.6	2.6			
アプラスフィナンシャル	2.7	2.4	2.4	2.4	2.5			

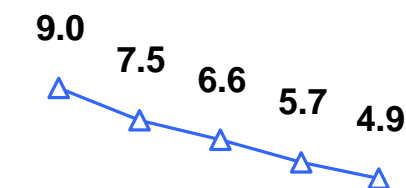
新生フィナンシャル^{1,2}



シンキ



アプラスフィナンシャル



1.2 1.1 1.1 1.0 1.1

2.1 1.5 1.3 1.1 1.3

1.5 1.4 0.9 0.8 0.8

12.4-6 12.7-9 12.10-12 13.1-3 13.4-6 13.7-9 13.10-12 14.1-3

12.4-6 12.7-9 12.10-12 13.1-3 13.4-6 13.7-9 13.10-12 14.1-3

12.4-6 12.7-9 12.10-12 13.1-3 13.4-6 13.7-9 13.10-12 14.1-3

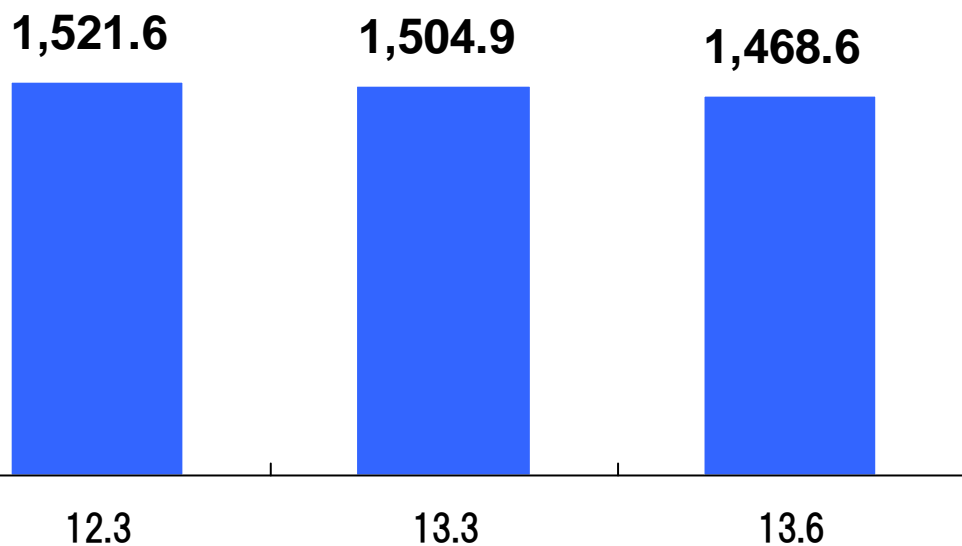
¹ 新生フィナンシャルが保有する一定の資産は、利息返還請求を受けた場合、契約に従いGEが損失を補償。
利息返還額については、GEによる補償対象分とネットに記載。
² 利息返還損失引当金の取り崩しには、貸倒引当金取崩益で計上されているものが含まれています。

ビジネスの概況：法人営業、スペシャルティファイナンス

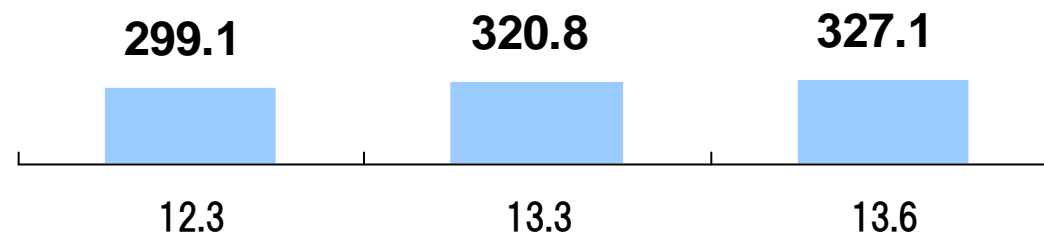
(連結、単位：10億円)

- 法人営業の貸出残高が2013年3月比で減少するも、引き続き積極的な取り組みを展開
- スペシャルティファイナンスは新規与信の取り組みにより増加

法人営業貸出残高¹



スペシャルティファイナンス残高¹



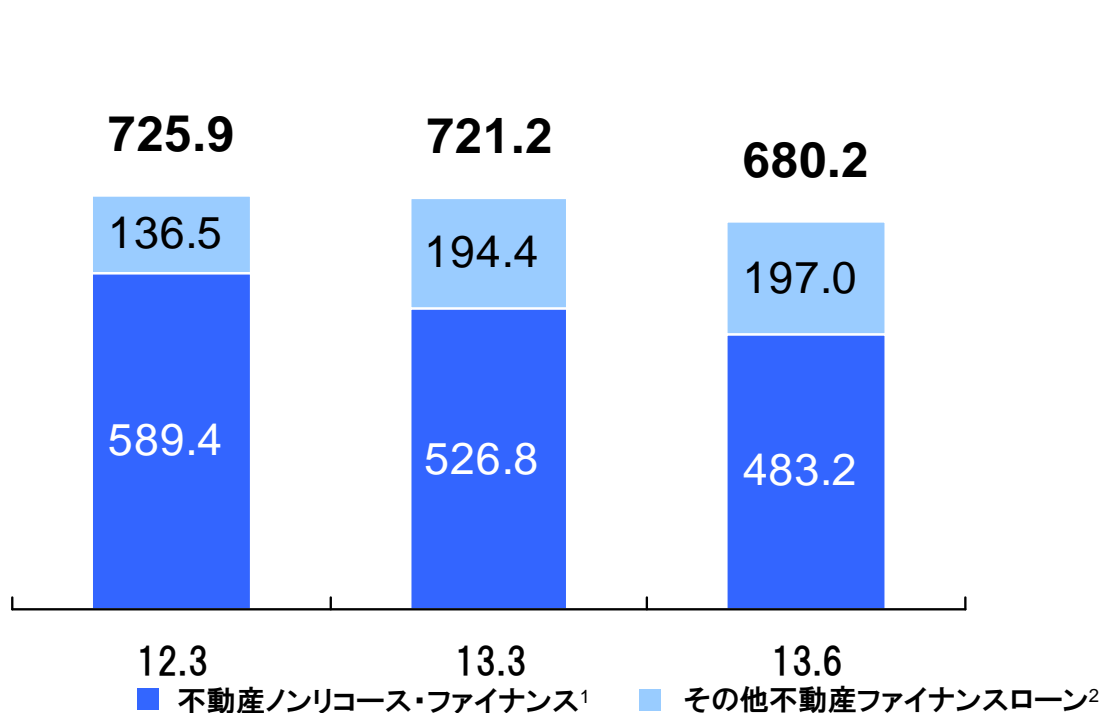
¹ 2013年4月1日付の組織改正に伴い、 SHIPPINGファイナンスに係る残高(2013年6月末1,032億円)を法人営業からスペシャルティファイナンスへ組み替えています。2012年3月末および2013年3月末の残高についても、今期の表記に調整されています。

ビジネスの概況：不動産ファイナンス

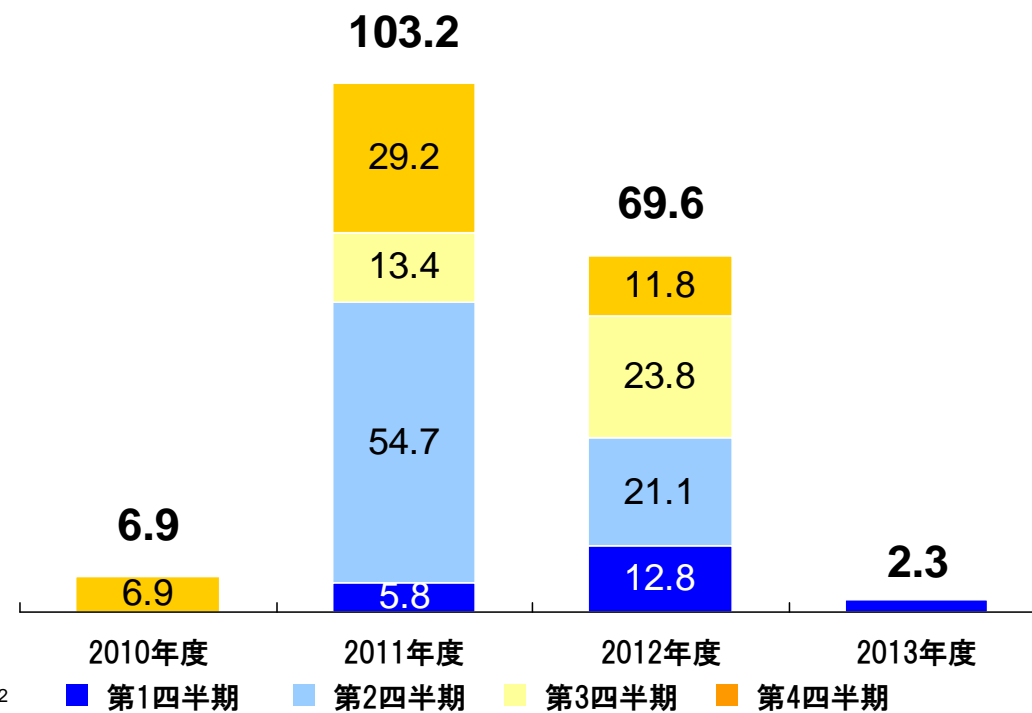
(連結、単位：10億円)

- 不動産ノンリコースファイナンスは不良債権処理を加速した結果、残高が減少
- その他不動産ファイナンスローンは新規与信の取り組みもあり増加

不動産ファイナンス残高



不動産ノンリコースファイナンスの新規実行額の推移



¹ 不動産ノンリコース・ファイナンスには、私募債および買入金銭債権などによる形態も含まれる

² その他不動産ファイナンスローンには、不動産法人向けおよび不動産投資法人(REIT)向け貸出などが含まれる

資産の質：不良債権

(単体、単位：10億円)

- 不良債権額を2013年3月末比で262億円削減し、不良債権比率は2013年3月末の5.32%から2013年6月末は4.80%へと大幅に低下

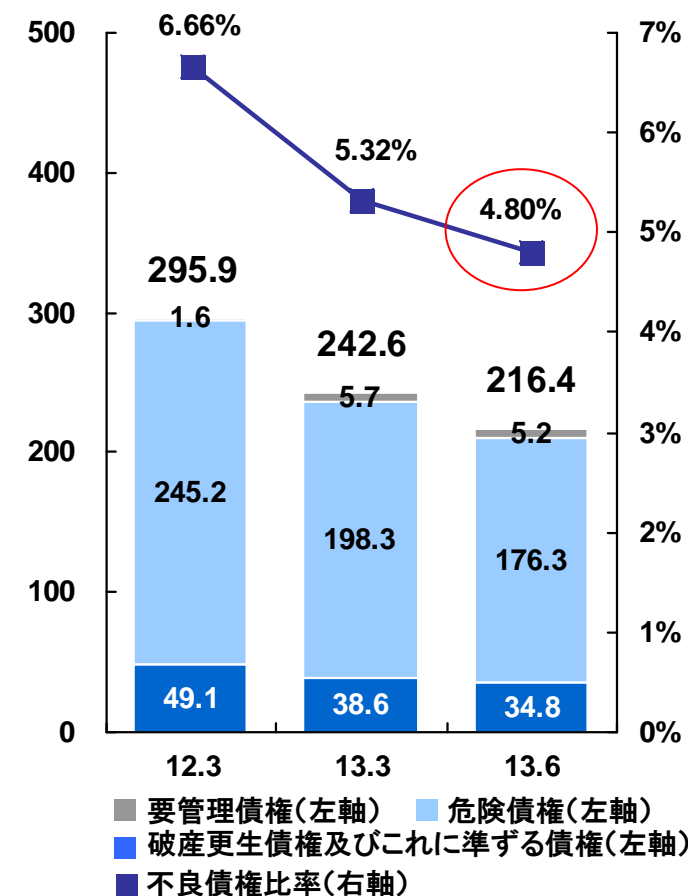
債務者区分別総与信残高と保全状況¹

(2013年6月末時点)

	残高(貸借 対照表計上額)	引当金	担保/ 保証	保全率	部分直接 償却額
正常先	4,092.2	18.7			0.1
その他要注意先	202.7	11.1			0.1
正常債権 小計	4,294.8	29.9			0.2
要管理、破綻懸念先	181.6	61.7	111.8	95.6%	0.1
実質破綻、破綻先	34.8	0.0	34.6	100.0%	62.8
不良債権 小計	216.4	61.7	146.6	96.3%	62.9
総与信残高合計	4,511.2	91.6			63.1

¹ 金融再生法に基づく総与信に対する保全

金融再生法に基づく開示不良債権残高、不良債権比率

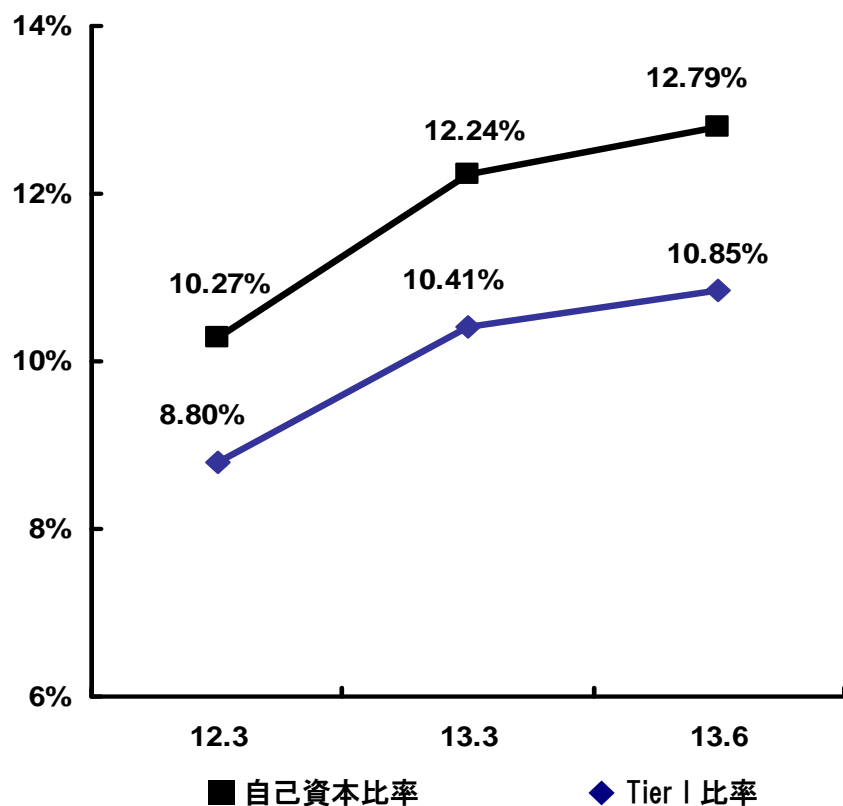


資本：自己資本比率

(連結、単位：10億円)

- バーゼルIIベースの自己資本比率は、引き続き改善
- バーゼルIIIベースでも第二次中期経営計画の目標水準以上を確保

自己資本比率の推移(バーゼルIIベース)



¹ バーゼル2.5によるStressed VaRを含む
² 本推計値は、算出時点の入手可能な情報に基づき当行が試算したものの、2013年6月末の試算は国際統一基準(完全施行ベース)での試算

資本の内訳と比率

	2013.3 (バーゼルII ¹)	2013.6 (バーゼルII ¹)	2013.6 (推計値) (バーゼルIII ²)	2016.3 (第二次中計目標) (バーゼルIII ²)
基本的項目(Tier I)	608.8	631.5		
補完的項目(Tier II)	178.7	179.5		
控除項目	-71.7	-67.2		
自己資本額	715.8	743.8		
リスクアセット	5,847.7	5,815.2		
自己資本比率	12.24%	12.79%		
普通株等Tier I比率			推計値： 8.1%	7.5%程度
Tier I 比率	10.41%	10.85%	推計値： 8.1%	

別添

主要データ

(単位:10億円)

バランスシート

【連結】	2011年 3月末	2012年 3月末	2013年 3月末	2013年 6月末
貸出金	4,291.4	4,136.8	4,292.4	4,232.9
有価証券	3,286.3	1,873.4	1,842.3	1,871.5
リース債権及び リース投資資産	206.2	197.4	203.5	204.0
割賦売掛金	330.4	347.9	365.8	364.7
貸倒引当金	-199.2	-180.6	-161.8	-147.1
資産の部合計	10,231.5	8,609.6	9,029.3	8,811.3
預金・譲渡性預金	5,610.6	5,362.4	5,457.5	5,680.7
借入金	1,672.7	476.7	719.2	587.9
社債	179.6	168.7	174.2	187.9
利息返還損失引当金	43.1	50.9	34.9	31.6
負債の部合計	9,620.3	7,982.0	8,345.6	8,119.6
株主資本	574.1	577.9	626.3	636.5
純資産の部合計	611.1	627.6	683.6	691.6

財務比率

【連結】	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度 第1四半期
経費率	48.9%	63.1%	64.6%	64.7%
預貸率	76.5%	77.1%	78.6%	74.5%
ROA	0.4%	0.1%	0.6%	0.6%
ROE	8.5%	1.2%	8.6%	8.2%
ROA (キャッシュベース)	0.5%	0.2%	0.7%	0.7%
ROE (キャッシュベース)	12.4%	3.2%	11.1%	10.4%

1株当たりデータ

【連結】	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度 第1四半期
1株当たり純資産	205.83円	212.67円	233.65円	236.25円
1株当たり純利益	21.36円	2.42円	19.24円	4.81円
キャッシュベース 1株当たり純利益	26.96円	6.05円	22.77円	5.66円

部門別業務粗利益:

(連結、単位:10億円)

業務粗利益: 法人部門	12.4-6	12.7-9	12.10-12	13.1-3	13.4-6	13.7-9	13.10-12	14.1-3
法人営業 ¹	3.2	3.2	3.2	4.2	3.2			
ストラクチャードファイナンス ¹	5.7	4.7	4.9	5.9	6.7			
プリンシパルトランザクションズ	2.5	5.0	1.0	2.6	5.4			
昭和リース	3.0	3.2	3.4	4.2	3.3			
その他	0.5	-0.2	-0.5	-3.8	0.0			
法人部門合計	15.2	16.2	12.1	13.2	18.8			

業務粗利益: 金融市場部門	12.4-6	12.7-9	12.10-12	13.1-3	13.4-6	13.7-9	13.10-12	14.1-3
金融法人	1.7	0.6	0.8	1.2	0.9			
市場営業	2.2	1.7	0.9	2.1	1.3			
その他	0.5	0.5	0.7	0.6	0.7			
金融市場部門合計	4.5	3.0	2.5	4.1	3.1			

業務粗利益: 個人部門	12.4-6	12.7-9	12.10-12	13.1-3	13.4-6	13.7-9	13.10-12	14.1-3
リテールバンキング	8.4	8.2	7.8	8.5	8.7			
新生フィナンシャルおよび新生銀行レイク	9.7	9.3	9.4	9.0	9.2			
シンキ	1.6	1.5	1.5	1.4	1.5			
アプラスフィナンシャル	11.6	11.8	12.1	12.0	11.6			
その他	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4			
個人部門合計	31.9	31.4	31.4	31.6	31.6			

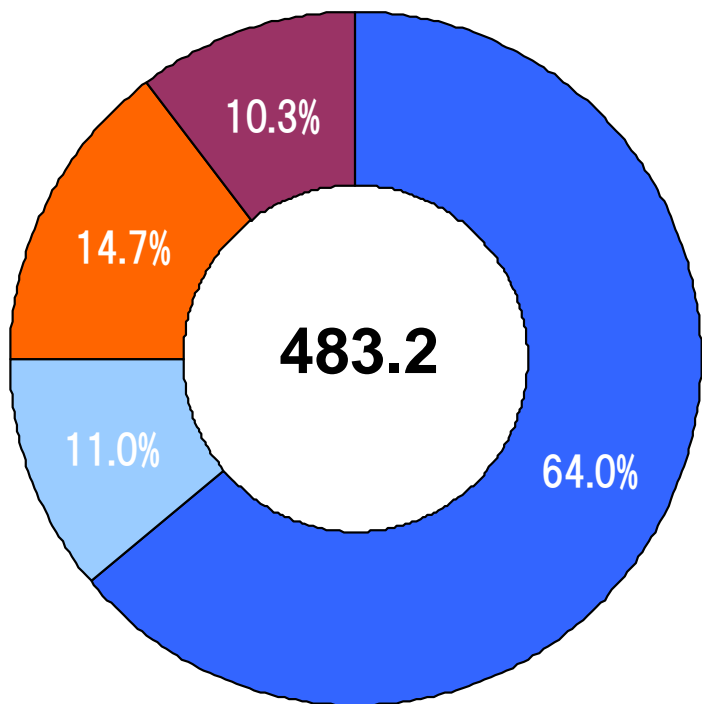
¹ 2013年4月1日付の組織改正に伴い、2012.4-6より、 SHIPPINGファイナンスに係る損益を法人営業からストラクチャードファイナンスへ組み替えています。

不動産ノンリコースファイナンス：地域別・物件別内訳

(単位：10億円)

地域別内訳

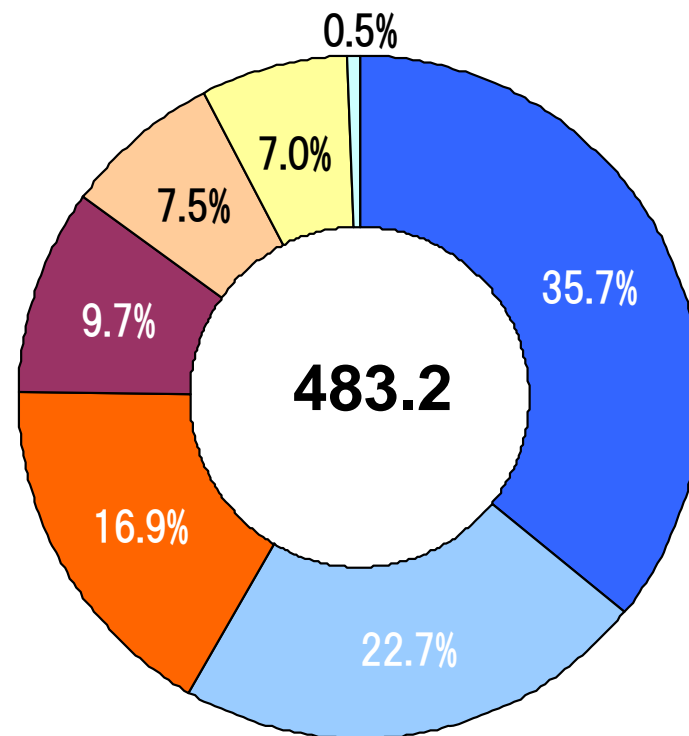
(2013年6月末)



- 関東(主に東京)
- 関西(主に大阪)
- 多地域型
- その他地域

物件別内訳

(2013年6月末)



- オフィス
- 商業施設/店舗
- 土地
- 居住用
- ホテル
- 分散型
- 開発用

免責条項

- 本資料に含まれる当行の中期経営計画には、当行の財務状況及び将来の業績に関する当行経営者の判断及び現時点の予測について、将来の予測に関する記載が含まれています。こうした記載は当行の現時点における将来事項の予測を反映したものです。かかる将来事項はリスクや不確実性を内包し、また一定の前提に基づくものです。かかるリスクや不確実要素が現実化した場合、あるいは前提事項に誤りがあった場合、当行の業績等は現時点で予測しているものから大きく乖離する可能性があります。こうした潜在的リスクには、当行の有価証券報告書に記載されたリスク情報が含まれます。将来の予測に関する記載に全面的に依拠されることのないようご注意ください。
- 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に公正妥当と認められている会計原則に従って表示されています。当行は、将来の事象などの発生にかかわらず、必ずしも今後の見通しに関する発表を修正するとは限りません。
尚、特別な注記がない場合、財務データは連結ベースで表示しております。
- 当行以外の金融機関とその子会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本資料はいかなる有価証券の申込みもしくは購入の案内、あるいは勧誘を含むものではなく、本資料および本資料に含まれる内容のいずれも、いかなる契約、義務の根拠となり得るものではありません。